

令和 7 年度

「運営に関する計画」

【中間評価】

大阪市立鯉江小学校

令和 7 年 1 0 月

1 学校運営の中期目標

現状と課題

安心・安全な教育の推進においては、児童間のトラブルや事案があった際、その都度でいねいに聞き取りをしたり、学年や管理職も対応にあたったりすることで、早期発見やその後の対応に努めている。令和6年度の校内アンケートの結果をみると「いじめはどんな理由があってもいけないと思いますか」に対する肯定的な回答は99%と非常に高い数値であった。報告・連絡・相談をさらに徹底し、重大事案にならないよう取り組みを続けていく。児童の問題行動については、学年や学校全体で情報共有を図り、複数で対応にあたっている。集団育成の視点からは、児童間のコミュニケーション不足や自分と違う価値観を認めて受け入れる素養などを育成する必要がある。不登校児童については減少傾向にある。引き続き、スクールカウンセラーや区役所のこどもサポートネット、こども相談センターなどの関係機関にもつなぎながら対応を進めていく。城東区の支援を受けて、スクールサポートルームを校内に設置し、教室に入れない児童について具体的な居場所づくりを進めている。自尊感情に関わる「自分にはいいところがあると思う」という項目について肯定的に回答する児童の割合が低下している。日々の生活の中でお互いの良いところや頑張りを認める機会を増やしていく必要がある。児童が中心となって活動したりすることで主体性は身に付いてきた、今年度も継続していきたい。

学力面では、令和6年度の大阪市小学校学力経年調査の結果を見ると、平均正答率としては、どの学年・教科においても、ほぼ大阪市平均と同等である。しかし、個人に目を向けると、正答率が6割に満たない低位層の児童も複数おり、個に応じた指導や基礎・基本の定着の取り組みを進めることにより、引き上げを図る必要がある。今年度もICTを活用することにより、個別最適な学びを充実させるよう、デジタルドリルの活用や自主学習の推進を進めていく。大阪市小学校学力経年調査における「学校の宿題以外に自分で計画を立てて学習しているか」という項目について、肯定的に回答する児童の割合が伸びない。自分で授業の予習や復習をしたり、興味のあることをについて調べたり、という自主学習の習慣化については、個人差がある。「計画を立てて」というところが難しいようで、児童が自分の学びに自ら調整するためにどのように取り組むかが今後の課題である。

教育環境の充実については、すべての学年においてICT活用が進んでいる。全学級に大型テレビを配置し、問題場面や資料の提示などで学習内容を視覚的にわかりやすく提示している。授業での端末活用や児童間の意見交換について、積極的に取り入れ児童も操作方法を習得している。しかし、大阪市の目指す基準となると授業のある日の8割の活用率にはなかなか届かないのが現状である。昨年度は、一人一台端末の劣化による不具合が頻発し、児童のスキルはあるが活用頻度が減少してしまう事象が起こっていたことも原因の一つである。今年度も引き続き、ICTを活用するとともに、より効果的な活用の仕方についても実践を通して探っていく。

今年度も、算数科の研究を中心に据え、授業における研究の視点を明確にし、各教員の授業力向上、授業実践に取り組んでいく。働き方改革の推進については、第2期「学校園における教員の勤務時間の上限に関する基準1を満たす教職員の割合を75%以上にすることを目指し、時間差勤務の推進やゆとりの日の設定を行いながら進めていく。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- 令和 7 年度の全国学力・学習状況調査の「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 85 %以上にする。
- 令和 7 年度の全国学力・学習状況調査の「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を、令和 3 年度より 3 %増加させる。
- 令和 7 年度の全国学力・学習状況調査の「将来の夢や目標をもっていますか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を 85 %以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和 7 年度の小学校学力経年調査・校内調査の「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」の項目について、最も肯定的に答える児童の割合を 35 %以上にする。
- 令和 7 年度末の校内調査の「習熟度別少人数授業やグループ別の授業は分かりやすい」の項目について、肯定的に答える児童の割合を 70 %以上にする。
- 令和 7 年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の体力合計点の対全国比の割合を、令和 3 年度より 0.5 ポイント向上させる。

【学びを支える教育環境の充実】

- 令和 7 年度末の校内調査の「日々の授業の中で学習者用端末を活用して、学習している」の項目について、「ほぼ毎日」と答える児童の割合を 90 %以上にする。
- ゆとりの日については、週 1 回以上設定する。学校閉庁日については、夏季休業期間中は 3 日以上、冬季休業期間中は 1 日以上設定する。
- 令和 7 年度末の保護者アンケートの「学校は家庭・地域との連携を密にとっているか」の項目について、肯定的に答える保護者の割合を、令和 3 年度より 3 ポイント増加させる。

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

- 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を 85%以上にする。(前年度 84.8%)
- 小学校学力経年調査における「自分にはよいところがあると思いますか」の項目に対して、肯定的に回答する児童の割合を、**78.5%（前年度 78.1%）以上にする。**
- 小学校学力経年調査における「将来の夢や希望を持っていますか」の項目に対して、肯定的に回答する児童の割合を **80%以上（前年度 79.7%）以上にする。**

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 小学校学力経年調査における「学級の友達の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を前年度（37.3%）以上にする。
- 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を 60%以上にする。
- 学校生活・授業アンケートの「規則正しく生活することができるよう意識している（早寝・早起き・朝ごはん）」に対して、肯定的な回答をする児童の割合を 75%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- 授業日において、児童の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が年間授業日 50%以上にする。(ただし事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く)
- 第 2 期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準 1 を満たす教職員の割合を 75%以上にする。
- 学校生活・授業アンケートで「学校は教育活動の様子について学校ホームページなど情報発信を行っている」の項目について肯定的に回答する保護者の割合を 80%以上にする。

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】</p> <p>○ 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「<u>そう思う</u>」と回答する児童の割合を 85%以上にする。</p> <p>○ 小学校学力経年調査における「自分にはよいところがあると思いますか」の項目に対して、肯定的に回答する児童の割合を、78.5%（前年度 78.1%）以上にする。</p> <p>○ 小学校学力経年調査における「将来の夢や希望を持っていますか」の項目に対して、肯定的に回答する児童の割合を 80%以上（前年度 79.7%）以上にする。</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容，取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学期に1回のいじめアンケートを実施することで、いじめの早期発見・早期解決に努める。 ・具体的な場面を想定させながら各学年の発達段階に応じて、いじめに関する取組を行うことで、すべての児童が「いじめは絶対に許さない」という意識をもつことができるようにする。 	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学期に1回のいじめアンケートを実施し、上がってきたすべての事案について聞き取りを行う。 ・いじめについて考える日や、いじめアンケートの実施に合わせて、各学年で学年集会を実施する。 ・学校生活・授業アンケートにおける「友だちの気持ちを考えて行動することができていますか。」に対して、肯定的な回答をする児童の割合を80%以上にする。 ・毎月1回、生活指導連絡会を行い、各学級でのいじめ事案やトラブルについて、全教員で情報共有を行う。 	
<p>取組内容②【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道徳心や社会性を高めるために、道徳科の学習や人権教育など教科横断的な取組を行うことで、命の大切さや人権についての意識を高めるようにする。 	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権教育についての研修を年3回実施する。 	

<p>取組内容③【基本的な方向 1 安全・安心な教育環境の実現】 ・学校のきまりについて継続的に指導を行い、規範意識を高めるようにする。</p> <hr/> <p>指標 ・学校生活・授業アンケートの「時間やきまりを守っていますか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を 70%にする。</p>	
<p>取組内容④【基本的な方向 2 豊かな心の育成】 ・たてわり班を編成し、児童集会や全校集会といった学校行事の様々な場面における交流を通して、高学年を中心に他学年児童と適切に関わろうとする態度を育成する。</p> <hr/> <p>指標 ・学校生活・授業アンケートの、1～3年生は「たてわり班で楽しく活動できた」4～6年生は「たてわり班のメンバーとなかよく過ごすために自分の役割を果たすことができた」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を <u>80%</u>以上にする。</p>	B
<p>取組内容⑤【基本的な方向 2 豊かな心の育成】 ・ピア・サポートや仲間づくりなどの取組を、学年ごとに実施することで、集団への所属意識や自己肯定感を高めるようにする。</p> <hr/> <p>指標 ・学校生活・授業アンケートの「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を、前年度水準(81%)を維持する。</p>	B
<p>取組内容⑥【基本的な方向 2 豊かな心の育成】 ・キャリア教育の年間実施計画に基づき、ゲストティーチャーの招聘や出前授業等体験的な活動を多く取り入れ、児童一人一人のキャリア形成につながる実践を計画・実施する。</p> <hr/> <p>指標 ・学校生活・授業アンケート「好きなことや夢中になっていることはありますか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を前年度水準（89%）を維持する。</p>	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>取り組み内容① ・学期に1回のいじめアンケートを実施して、いじめの早期発見・解決に努めている。 ・学年目標に相手を思いやる気持ちを入れたり、適時学年集会を開いたりすることでいじめはいけないということを徹底し、また職員間でも生活指導連絡会を通して児童の様子を共有している。 ・児童は「いじめはいけない」という意識は持っているが、日頃の些細な言動がいじめにつながるという認識に結びついていないことがあり、継続して指導が必要である。</p> <p>取り組み内容② ・道徳の授業や「いのちについて考える日」、平和学習等を通じて、命の大切さや人権意識を高める取り組みを行っているが、何気なく人を傷つける言動も見られるため継続して指導が必要である。</p> <p>取り組み内容③</p>	

・以前より規範意識は高まっているように感じるが、登校時間、廊下を走る、靴の履き替えなどまだまだ守られていないことも多い。

・全教職員が共通認識し、同じように指導することで学年や学級による差をなくしていかなければいけない。

取り組み内容④

・昨年度より始まったたてわり班活動が定着し、高学年はみんなをまとめるリーダーとなり、低学年は優しく接してもらうことで楽しく参加することができている。

取り組み内容⑤

・低学年はまだ自分のことが中心のため集団への所属意識が低くなりがちである。

・各学年で取り組みを行っているが、学年によって差があるためピアサポートの情報交換をして共有することが必要である。。

取り組み内容⑥

・各学年、校外学習やゲストティーチャーを計画、実施し、児童のキャリア形成につながる取り組みを行っている。

次年度への改善点

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標 2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>○ 小学校学力経年調査における「学級の友達の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「<u>当てはまる</u>」と回答する児童の割合を前年度(37.3%)<u>以上に</u>する。</p> <p>○ 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を 60%以上にする。</p> <p>○ 学校生活・授業アンケートの「規則正しく生活することができるよう意識している（早寝・早起き・朝ごはん）」に対して、肯定的な回答をする児童の割合を 75%以上にする。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容，取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>・ 自主学習やデジタルドリルに取り組むなかで，自ら課題を選択したり，自らの学習を振り返ったりする習慣を身に付けさせ，主体的に学習に向かう態度を育成する。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>・ 小学校学力経年調査における「学校の宿題以外に自分で計画を立てて学習しているか」の項目について，肯定的に答える児童の割合を 60%以上にする。</p>	B
<p>取組内容②【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>・ 話し合い活動を行う際には，考えを可視化したり操作化したりすることで，自分の考えと友達の考えの類似点や相違点を意識させるとともに，良いと思った考えは積極的に取り入れる習慣を身に付けさせる。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>・ 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて，自分の考えを深めたり，広げたりすることができていますか」に対して，肯定的に答える児童の割合を <u>70%以上</u>にする。</p>	B
<p>取組内容③【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>・ 算数科において，言語能力の育成を目指した指導法の工夫や基礎基本の定着のための時間と内容の充実を図り，児童の学力向上に努める。</p>	B

<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校学力経年調査における算数科の平均正答率を、同一母集団において経年的に比較し、前年度の水準を維持させる。 	
<p>取組内容④【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 外国語科や外国語活動の時間をアクティビティを中心とした学習になるように、活動内容や方法を工夫することで、積極的に活動しようとする態度を養う。 	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 外国語を使ったゲームやチャンツ等、アクティビティに特化した研修会を年に1回以上実施する。 ・ 小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を60%以上にする。 	B
<p>取組内容⑤【基本的な方向 5 健やかな体の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 音楽や用具を有効に活用することで、限られた場所や時間であっても、児童が楽しく「体づくり運動」に取り組めるように学習内容や方法を工夫した授業実践をする。 	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、肯定的な回答をする児童の割合80%以上にする。 	
<p>取組内容⑥【基本的な方向 5 健やかな体の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生活振り返り週間や食育の日を活用して、睡眠や食の大切さについて児童が具体的に考えることができるような資料や教材を使って、継続的に取組を行っていくことにより、自らの生活をよりよく改善していこうという態度を養う。 	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 毎月、「食育だより」「保健だより」を作成・配布したり、学級指導用のパワーポイントを提示したりすることで、児童への指導に活かしたり、保護者への啓発を行ったりする。 ・ 学校生活・授業アンケートの「規則正しく生活することができるよう意識している（早寝・早起き・朝ごはん）」に対して、肯定的な回答をする児童の割合を75%以上にする。 	B
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>取組内容①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ナビマなどのデジタルドリルを活用することで、個に応じた学習を進めることができている。 ・ ノートを週に1回提出するなど学年でそろえて自主学習に取り組ませたり、単元の終わりにまとめノートを提出させたりすることで、自分で学習する習慣をつけることができている。 <p>取組内容②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 話し合う活動を多く設定し、ペアやグループでの交流を活発にすすめられるように計画している。 	

- ・グループで意見をまとめたり、まとめたことを発表したりすることで、他の児童の意見や考えに触れる機会を多くもつことができている。

取組内容③

- ・図や絵、式を使って自分の考えを書き、それをペアやグループに説明したり、全体に発表したりする活動をしている。
- ・週に1回、算数の文章問題に取り組むことで、問題文を読んだり、考えの説明を書いたりする機会をもっている。

取組内容④

- ・ゲームやチャツ等、アクティビティーに特化した研修会を実施した。
- ・英語の歌やチャンツ、スピーチ、ゲームなど積極的に取り組んでいる。

取組内容⑤

- ・水泳学習では、どの学年も音楽を取り入れた準備運動や水慣れ、リズム泳をすることで、楽しみながら学習することができた。
- ・固定遊具や体育用具を活用し、体づくり運動をしている。

取組内容⑥

- ・学期ごとの保健指導では、学年の実態に応じた内容で生活リズムについて考える機会をもつことができた。
- ・毎月の食育の日ではパワーポイントを見せたり、食に関する指導の全体計画に基づき、食育を行うことで、食の・。大切さについて指導している。

次年度への改善点

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】</p> <p>○ 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が年間授業日の50%以上にする。（ただし事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く）</p> <p>○ 第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1を満たす教職員の割合を75%以上にする。</p> <p>○ <u>学校生活・授業アンケートで「学校は教育活動の様子について学校ホームページなど情報発信を行っている」の項目について肯定的に回答する保護者の割合を80%以上にする。</u></p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容，取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①</p> <p>【基本的な方向6教育DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進】</p> <p>・一人一台端末を使って，インターネットやデジタルドリル（navima）を活用した。「個別最適な学び」や，ロイロノートを活用した児童同士の合意形成を図る。「協働的な学び」を授業の中に取り入れることで，「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>・校内調査における「日々の授業の中で学習者用端末を活用してほぼ毎日学習している」の項目について肯定的な回答をする児童の割合を60%以上にする。</p>	B
<p>取組内容②【人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <p>・ゆとりの日を週1回設定する。また、定時退勤日を月1回設定し、長時間勤務の解消に努める。</p> <p>・会議の精選や効率化を図る</p> <hr/> <p>指標</p> <p>・時間外勤務時間45時間以下の教員の割合を75%以上にする。</p>	B
<p>取り組み内容③【基本的な方向⑨家庭・地域などと連携・協働した教育の推進（情報発信）】</p> <p>「開かれた学校づくり」を推進するために学校ホームページの更新や各通信の発行に努める。</p>	B

<p>・ <u>学校生活・授業アンケートで「学校は教育活動の様子について学校ホームページなど情報発信を行っている」の項目について肯定的に回答する保護者の割合を80%以上にする。</u></p>	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>①・各教科の目的に応じた調べ学習やデジタルドリルを使って「個別最適な学び」の機会をつくることができる。しかし、協同的な学びにはつながっていない。 ・児童の8割以上が使用した日数を50%以上にすることが目標なのに対して約30%しかないため、心の天気の利用を徹底していく必要がある。0 ・ロイロや発表ノートの研修が必要。(教員の活用能力の二極化)</p> <p>②・昨年より週1コマ削減されたので、授業準備に充てることができ少し余裕ができた。 ・ゆとりの日や定時退勤日を設定することで、長時間勤務の解消が進んでいる。しかし、家にパソコンを持って帰ったり土日出勤したりしている人がいるため、個々の働き方改革も必要である。 ・校務の量に偏りがあるため、校務の細分化が必要である。また、会議(定時をすぎることも)や行事、研修の精選が必要。 ・急な研修などで計画通りいかないことも。</p> <p>③・プライバシー保護のために、児童の撮影等が難しくなったためあまり行えていない。 ・学校長が中心となり、学校ホームページは更新されており、学年だよりなどで必要事項については伝達できている。</p>	
<p>次年度への改善点</p>	